

高等学校における教科指導の充実

国 語 科

PISA型「読解力」を育む指導の工夫

栃木県総合教育センター
平成21年3月

ま え が き

総合教育センターでは、平成17年度より、「高等学校における教科指導の充実に関する調査研究」に取り組んでいます。この調査研究の目的は、基礎・基本の確実な定着を図るための授業改善を目指して、教科指導の在り方について研究し、その成果を普及することにより、生徒の学力の向上に資することにあります。

教育課程実施状況調査や学力に関する国際的な調査では、日本の児童生徒の学力の状況や学習に対する意識などが明らかにされ、文部科学省等からも学力向上のための様々な対策が打ち出されたり提言がなされたりしています。

平成19年12月に公表された、2006年のOECD生徒の学習到達度調査（PISA）では、科学的リテラシーをはじめ、数学的リテラシー、読解力のそれぞれについて問題点が指摘されています。

また、平成20年12月には、国際数学・理科教育動向調査の2007年調査（TIMSS2007）の結果が公表されました。この調査では、学力低下に歯止めがかかったという分析がある一方で、パターン化された指導の弊害とも見られる結果も一部に見られ、思考力の育成に課題があることも指摘されています。

小学校と中学校の新学習指導要領が平成20年3月に公示されたのに続き、21年3月には、高等学校の新学習指導要領が公示される予定です。高等学校においては、数学と理科が24年度から、国語、地理歴史、公民、外国語が25年度から学年進行で実施されます。小・中学校、高等学校とも、今回の改訂の主な改善事項として、「言語活動の充実」、「理数教育の充実」が示されました。これらは、先に挙げた各種調査で、思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式の問題、知識・技能を活用する問題に課題が見られたことなどに対する改善策でもあります。

本調査研究においては、今年度、国語科、公民科、数学科、理科、外国語科（英語）の各教科で、各種調査の結果から指摘されている課題と教育界の動向を踏まえ、その解決を図るための授業改善について取り組みました。研究の成果をまとめた本冊子を有効に御活用いただければ幸いです。

最後に、調査研究を進めるにあたり、御協力いただきました研究協力委員の方々に深く感謝申し上げます。

平成21年3月

栃木県総合教育センター所長

鈴木 健 一

目 次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
事例1 マインドマップで発想を広げて小論文を書く・・・・・・・・	3
事例2 小説と映画を比較して「舞姫」を読み味わう・・・・・・・・	12
事例3 「檸檬」におけるクリティカル・リーディング・・・・・・・・	22
おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	35

※本資料は、栃木県総合教育センターのホームページ「とちぎ学びの杜」内、「調査研究」と「教材研究のひろば」のコーナーにも掲載しています。

「とちぎ学びの杜」 <http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/>

PISA型「読解力」を育む指導の工夫

はじめに

国語科では、OECD生徒の学習到達度調査（PISA）（以下「PISA調査」とする）の結果から指摘されている課題を踏まえ、学習指導要領の趣旨に則り、今年度の研究テーマを「PISA型『読解力』を育む指導の工夫」として、研究に取り組んだ。

PISA調査においては、「読解力」の分野で日本は2000年調査の8位から2003年調査の14位へ大きく順位を下げ、2006年調査では15位となった。（総合平均得点では上位2位グループに位置する。）PISA調査における「読解力」とは、「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力」と定義されている。PISA調査で課題とされた「読解力」を育むためには、学習指導要領に示された、「話すこと・聞くこと」「書くこと」及び「読むこと」の各領域にふさわしい教材や言語活動を調和的に取り上げ、指導の改善を図り、国語力を総合的に高める必要がある。

文部科学省では、2003年のPISA調査の結果を踏まえ、「読解力向上に関する指導資料—PISA調査（読解力）の結果分析と改善の方向—」（平成17年12月）をホームページ（http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku/siryu/05122201.htm）等で紹介している。その中で、PISA型「読解力」の育成のために、次のように七つの「指導のねらい」を示している。

指導のねらい	
ア	テキストを理解・評価しながら読む力を高めること (ア) 目的に応じて理解し、解釈する能力の育成 (イ) 評価しながら読む能力の育成 (ウ) 課題に即応した読む能力の育成
イ	テキストに基づいて自分の考えを書く力を高めること (ア) テキストを利用して自分の考えを表現する能力の育成 (イ) 日常的・実用的な言語活動に生かす能力の育成
ウ	様々な文章や資料を読む機会や、自分の意見を述べたり書いたりする機会を充実すること (ア) 多様なテキストに対応した読む能力の育成 (イ) 自分の感じたことや考えたことを簡潔に表現する能力の育成

また、この「読解力向上に関する指導資料」では、上記のねらいに即して、小学校・中学校の各教科及び総合的な学習の時間における「読解力を高める指導例」（全45例）を紹介しており、その前書きでは、『読解力』向上のために単元を特設するのではなく、これまで行われてきた指導に工夫・改善を加えることで基本的に短時間で実践できる」と述べている。

この考え方を参考にして、本調査研究では、次ページに挙げる各事例において、高等学校の国語科における「PISA型『読解力』を育む指導の工夫」について実践した。いずれの事例も、特別に単元を設定したものではなく、年間指導計画に位置付けられた単元の指導に、上記七つのねらいのいくつかからヒントを得て工夫を加えたものである。七つの「指導のねらい」を網羅したものではないが、これを参考にして、指導の工夫改善に生かしていただきたい。

事例 1 マインドマップで発想を広げて小論文を書く

フィンランドの教育メソッドを参考に、マインドマップの作成やグループ活動を取り入れて、学び合いを通して小論文を書く。

事例 2 小説と映画を比較して「舞姫」を読み味わう

小説の「舞姫」と、映画の「舞姫」を比較して、テキストを「解釈」したり「熟考・評価」したりして、自分の意見を書く。

事例 3 「檸檬」におけるクリティカル・リーディング

「檸檬」とその習作である「瀬山の話」を、批判的な視点をもって評価しながら読み比べる。

<研究協力委員>

栃木県立宇都宮清陵高等学校	教 諭	津久井 伸 子
栃木県立小山南高等学校	教 諭	杉 本 有加里
栃木県立足利西高等学校	教 諭	岡 田 智 子

<研究委員>

栃木県総合教育センター 研究調査部 副主幹 吉 澤 正 光